

みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

平成30年度福岡県保育所(園)長研修会・保育者の集い	2
第56回京築ブロック保育研究大会	3
第52回全国保育士会研究大会報告	4
第62回全国保育研究大会(川崎大会)報告	5
公立発信	6
幼児教育・保育の無償化について	7
西日本豪雨に係る被災地支援募金等について	8
福岡県保育士就業マッチングサイト	9
コラム	10
編集後記	10



平成30年度福岡県保育所(園)長研修会・ 保育者の集い

新しい保育状況下の 学びに参加して

社会福祉法人 感田福祉会 感田保育園 園長 日南川 宣明

平成30年度福岡県保育所(園)長研修会・保育者の集いが西鉄グランドホテルに於いて、平成30年11月27日～28日の2日間にわたり開催されました。

平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、5年後の見直しが課題となっています。

この新制度は、「保育の質の向上」と「保育量の拡大」を目標とし、消費税をその財源とするものでした。この間、待機児童の解消を図るため、保育施設整備等により量の拡大は進みましたが、保育士不足の深刻化等により職員の配置基準の緩和措置が入られるなど、質の低下が懸念されています。

このような状況下、トップ自らの学びの場として開催された研修会第1日目は、香川大学教育学部家政教育 准教授 松井剛太氏より「保育の質の向上とこれからの保育」と題してご講演を頂きました。保育・幼児教育を通して、子どもたちになにを学んでほしいのか、幼児期において育みたい資質・能力とは、研究者としての保育者の姿など、これからの保育が目指すところについて様々な問いかけがありました。How to (どうやって学ぶのか)からWhat if (何を学ぶことが出来るのか)へ「子ども、保護者、同僚、地域の声を聞き子どもの学びを読み取り、保育計画の基点とし学びの姿を評価に変えて以降の教育につなげていく。そのために、子どもたちが学んだことを活用していく過程や次の課題を自分で切り開くためにどうするかを保育士が保育の中で工夫する手立てを示すことが出来るように組織的に取り組むことが重要である」とお話しされました。

その後の式典では、多くのご来賓の皆様の前で長年にわたり保育所等でご活躍された功績により、40名の先生方が福岡県保育協会会長特別表彰を受賞されました。心からお祝い申し上げます。

情報交換会では、福岡市保育連盟・北九州市保育所連盟両会長様や議員の方々に多数ご臨席賜り各地区の状況をお伝えすることが出来たと思います。また、各テーブルにおいても終始寛いだ雰囲気での情



報交換会となりました。

研修会2日目は、中村学園大学教育学部 教授 那須信樹氏より「園を育む人材を育てる～キャリアメイクによる人材育成マネジメントを目指して～」と題してご講演を頂きました。キャリアアップ(キャリアパス構築)について保育士の皆さんに尋ねると、仕事をもっとよりよいものにするためには、自分自身の取り組み方を見直し研鑽を重ねることが重要であると、その必要性を肯定する意見が多い中、一方で処遇改善が図られても管理職になりたがらない人が増えてきており、専門職としての自律性を問う現状がみられるそうです。専門職としての自律性と協働性を高めるために、園内研修の仕組みづくりや研修をリードできるリーダー育成に取り組んでいくことが各園の課題となります。また、リーダーシップの捉え方の1つとして、分散型・共働的リーダーシップについて提案がありました。

曖昧になっているキャリアパスの明確化(昇進昇格の基準・賃金水準・必要なスキル・評価等)、研修対象者を意識した専門職としての育ちが支えられる(実感できる)研修制度の構築と利用拡充、育ちゆく(学び続ける)存在としての自覚を持ち続けられる職場づくりなど、園長に求められるリーダーシップとマネジメント力向上は不可欠な要素であると改めて感じました。

複雑な背景や課題がある中、「保育の質の向上」「人材育成」について2つの講義を受け、子どもの主体的な活動を支えるためには、保育士や職員が意欲的に活動出来る環境を整備・継続する事の大切さを再確認し、忘れかけていたすべき事を1つ思い出すきっかけになりました。意義有る研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

第56回京築ブロック保育研究大会

「優しい心 輝く笑顔 元気な子どもを育てる保育」

第二青蓮保育園 園長 竹本 郁世

平成30年11月11日、第56回京築ブロック保育研究大会が築上町文化会館コマレにて開催されました。

平成30年は世界中の幼児教育の実践と研究から、幼児期の質の高い教育が将来における子どもの育ちに大きく影響を与える事が明らかになり、子どもの幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にした保育指針に改定されました。特に子どもの育ちにとって、認知能力だけでなく、非認知能力の育ちが大切である事が明らかになり、保育園と保育従事者に一層の期待が寄せられる中での開催となり、意義のある大会となりました。

意見発表では、みやこ町の認定こども園ポランのひろば 保育士 諏澤 香先生より「チームで子どもを育てる」をテーマに、クラス運営が担任に固定してしまうのではなく、保育内容に応じて職員の配置換えを行いながら運動会の鼓隊の練習や行事に取り組んでいること、毎日の遊びや戸外活動も担任のみに任せず、役割を決め、チームで準備することで得意分野を生かして、子ども達に十分な遊びや関わりが出来ているという実践内容の発表がありました。

また、豊前市の宇島乳児保育園 栄養士 笹原寿江先生より「触れるから始まる食の大切さ～触れる・育てる・作る・食べる～」をテーマにした取り組みが発表されました。幼児期から野菜を育てる活動を行い、園の「ひまわり農園」で育てた野菜を使ったクッキングや行事食の紹介がありました。アレルギーのある子どもに対しては除去食を準備し、職員が間違えないように写真付きのプレートを付けている様子などが紹介されました。

式典では京築地方保育士会長の青佐先生の児童憲章の朗読、大会会長の岡村先生の式辞に続いて福岡県保育協会会長代理として飯田恵津子先生の挨拶、さらに大会名誉会長の築上町長新川久三様から、築上町での大会の開催のお礼と、町の子育ての取り組み等の紹介がありました。次に国会議員で築上町出身の松山政司様、武田良太様、福岡県知事代理の福



鈴木翼先生

社労働部次長の塩川正一様を初め、沢山の来賓の方にご祝辞を頂き、式典が執り行われました。

一般表彰として11名の先生方が保育協会副会長の飯田恵津子先生より表彰を受け、その喜びが会場いっぱいに伝わってきました。

記念講演では、ソングブックカフェの鈴木翼先生によるうたあそびで、『子どもたちと笑い合えるあそびうたいっぱい!』でした。「できてもできなくてもやってみよう」のメッセージソングをスタートに会場の全員が総立ちとなって、明るくコミュニケーションを取りながら、体操やうたあそびが披露されました。子ども達も大人も、「できてもできなくてもまずやってみよう、一步一步進んでほしい」という翼先生の思いが伝わり、会場の皆が元気いっぱいにダンスや歌を楽しみ、子ども達の豊かな感性や表現する力を養うための、保育実践に繋がる楽しい研修となりました。

当日は天気にも恵まれ428名の参加があり、急遽会場に補助椅子を入れての開催になりましたが、準備や式典、片付けにおいてもとてもスムーズに運営することができました。これも偏に築上町9園の園長先生、副園長先生、各園からスタッフとして参加して頂いた担当の先生、ブロック大会の実行委員の先生方の熱意とご協力のお陰です。当日は早朝よりそれぞれの役割を果たして下さり有り難うございました。そして京築地方保育協会の各園の先生方には沢山の参加を頂き、第56回京築ブロック保育研究大会が盛会裏に終わりました事を心よりお礼を申し上げます。



第52回 全国保育士会研究大会報告

子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てる保育の実現をめざして
～子どもたちの笑顔！新たな時代へのステップ！～

うきは市立若葉保育園 佐藤 光子

平成30年11月7日、大分県大分市に於いて、大分県警察音楽隊が奏でる童謡のあたたかな音色につつまれた中で式典が行われました。

基調報告では「保育士・保育教諭のキャリアアップの確立と、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てる保育の実現をめざして」をテーマに全国保育士会会長の上村初美先生より、子どもの育ちと保育をめぐる状況や全国保育士会の取り組みについての報告がありました。養護と教育が一体となった保育が重要視される中で、子どもたち一人ひとりの思いをしっかり受け止めて愛情豊かな育ちを保障する為に、どのような環境をととのえていくべきなのか、小学校との連携をどのように確立していくのか、改めて保育士としての役割と責任を感じました。

行政説明では、厚生労働省子ども家庭局保育課企画官唐沢裕之氏より、「保育分野の現状と取組について」をテーマに様々なデータや資料を用いて行われました。

記念講演は、「保育に活かせる心理学」をテーマに、地元大分県出身の心理学者・臨床心理士の植木理恵氏により行われました。外向的か内向的であるか、情緒不安定型か情緒安定型であるかといった子どもたちが生まれ持っている「気質」を変えずに認めていくことの重要性が話されました。気質を否定することほど子どもを苦しめることはない、だからこそ私たち保育士は子育てのプロとしてその子の良さを認めて遺伝子の味方になってあげること、変えないことの大切さを強調されました。3歳から4歳頃までに社交性の幅(一緒にいると落ち着く人数)も確立されるが、これは家庭環境によってできる早期性格ということでした。「優しい」「明るい」ということが素敵なことであり、当たり前なことだと子どもも大人も感じ認めていける社会作りを願いますと強調されました。子どもたちの気質を認めてあげることがもちろん、乳幼児期の育ちが子どもの将来へつながる基礎となるので、子どもたち一人ひとりを認めてあげられる仕事に携わっている子育てのプロとしての自覚を持ち、しっかりと子どもの気持ちを受け止めていくことが出来るように、より一層の専門性の向上を目指したいと思

ました。

2日目は「保育の内容を深める～気になる子・障害のある子への保育～」をテーマとした第3分科会に参加しました。分科会では2つの研究事例発表が行われ、助言者のほあしこどもクリニック副院長帆足暁子氏より考察と助言がありました。

研究①では情緒不安定なA児の行動に対する保育士としての言葉かけや関わりなどを通し、子どものことを第一に考え子どもに寄り添うことに留意することにより、子ども主導の関係となり、子どもとの信頼関係も生まれ、子どもが変わり始めるという気づきがあったこと。研究②では行動が決定するまでの心の動きを「こころの揺れ」とし、気になる行動を通して保育士が子どもの見えにくい分りにくい部分を丁寧に見ることで、気になる行動や姿が減少していくという事例研究発表でした。帆足氏より、子どもの気持ちに寄り添い、気づき、関わっていくことで子どもが生きていく力を育てていくことの出来る保育士のプロとしての役割を求められました。

午後はグループワークと発表があり、配慮が必要な子どもへの対応で困っていることをテーマにKJ法を用いてグループワークが行われました。0歳から2歳までは先生に褒められること、3歳から5歳はクラスから認められること、この経験こそが大切だということでした。また、子どもは1対1で自分に関わってくれた安心感が愛着関係となり、保育士と真剣に向きあってくれるようになるので、愛着関係の構築が一番の根底にあると思いました。保護者が育ててきて良かったと思えるように、また子どもも支えてくれた大人がいたと思えるように、日々の保育の中で計画・実践・反省をし解決策を考えていきたいと思いました。そして、どうしたら子どもが楽しく生きていけるのか考えていくことの大切さ、その為にも子どもに寄り添い丁寧な関わりをもって日々の保育を進めていくことの重要性を再確認しました。

今後も子どもたちと保護者に寄り添い、明るく楽しく優しさあふれる、笑顔あふれる保育園づくりを目指していきたいと思

第62回 全国保育研究大会（川崎大会）報告

「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」

社会福祉法人国分福祉会 子鳩保育園 園長 塚本 高士

平成30年10月24日～26日の3日間にわたり川崎にて第62回全国保育研究大会が「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」を大会主題に開催されました。大会1日目はオープニングアトラクションや式典、行政説明、基調報告、交流会が行われ、2日目は11のテーマに分かれて分科会が開催されました。3日目には人間性脳科学研究所の澤口俊之所長による「子どもの脳をいかに育むか」の記念講演が行われました。

大会2日目の分科会では第10分科会「新しい時代における保育所・認定子ども園に必要な視点」に参加しました。講演Iは東京大学大学院教育学研究科の遠藤利彦教授による「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」、全国保育協議会保育施策検討特別委員会の佐藤秀樹委員長による「《子ども・子育て支援新制度第2期子ども・子育て支援事業計画に向けた教育・保育施設の課題と対応》(パンフレット)を読む」、講演IIは中央大学法学部の宮本太郎教授による「《地域共生社会》と保育所・認定子ども園の役割」、講演IIIは慶應義塾大学経済学部の駒村康平教授による「次世代支援の重要性～格差・貧困の世代間連鎖とそのメカニズム～」が行われました。

講演の中で印象に残ったのは、遠藤教授による非認知的能力の話でした。非認知的能力とは、「自己」と「社会性」の心の力で、保育所保育指針でも重要視されています。自己に関わる心の性質とは、自分を大切にし、自分を高めていくための力で、自尊心や自己肯定感、自制心、グリット(くじけない勇気)、自立心、自律性などが該当します。社会性に関わる心の性質とは、集団の中に溶け込み、人との関係を作り維持していくための力で、心の理解能力や共感性、思いやり、協調性、道徳性、規範意識などが該当します。これら自己と社会性の両面に関わる感情の制御・調節する力が非認知的能力の核となります。

この非認知的能力を育てるためには、乳幼児期のアタッチメントが必要になってきます。アタッチメントとは安全確保のための心の仕組みで、保護してもらえることへの確かな見通しが持てれば、自発的探索

や一人でいられる能力、自律性の獲得・拡張ができるようになります。特定他者への接近を通して安心感の回復・維持を行うことで、《感情の調節・立て直し》と《感情の調律・映し出し》を促します。《感情の調節・立て直し》では、子どもの崩れた感情をなだめ、回復させることで、自他への基本的信頼感や自律性、たくましが育ちます。また、《感情の調律・映し出し》では、子どもの感情に寄り添い、感情を映し出してあげること、心の理解能力や共感性、思いやりが育ちます。

これら非認知的能力や学びに向かう力など基礎的人間力をしっかり築いておくことで、教育機関での知識や技術の習得を大きく伸ばすことが出来ます。また、知識や技術など情報処理力(頭の回転の速さ)では答えのある問題には対応できますが、答えのない問題に対応するには判断力や表現力など情報編集力(頭のやわらかさ)が必要になってきます。

基礎的人間力を土台にして、情報処理力と情報編集力との掛け算で答えのない問題から納得解を導き出す力がこれからは求められます。価値観が多様化し、立場の違う人が共に生活していく中で、ある程度の人々に納得してもらえ答えを導き出し、物事を決めていく時代になっていくと思います。

これらの力を育むためには、たくさんの経験をすることが重要だと考えています。さまざまな状況において自分で考えて試してみる、出た結果を反省して次に生かす、これを繰り返すことでたくさんの経験値を積むことが出来ます。そうした中で生きるための知恵を習得すれば、知識や技術だけでは解決できない問題に対応できるようになります。産業革命以降二百年あまりで、我々の生活は大きく変化しました。情報技術の進歩によって、これからの時代はさらに変化が激しくなります。子ども達には、変化に上手く対応し、たくましく生きてもらいたいと思います。有意義な研修で勉強になりました。

一人ひとりが輝く保育をめざして

上毛町立大平保育所 所長 末永 浩一



芋掘り体験

公立 発信

はじめに

上毛町は福岡県の最も東にある人口8千人に満たない自然豊かな小さな町です。町の東は一級河川山国川を挟んで大分県中津市と接しています。住民の生活圏・経済圏は中津市と共有しています。

気候は穏やかな瀬戸内海型に属し、九州の中では雨の少ない地域の一つとなっています。

町内には中学校1校、小学校4校、公立保育所1園、私立保育所(園)が2園あります。

今回は、公立の大平保育所を紹介します。

保育目標

- ・人と関わりながら社会性を身に付ける。
- ・自然体験を通して様々なものに興味や関心をもつ。
- ・成功体験の積み重ねにより自尊感情を高める。

具体的な取り組み

○地域の方々との関わり

芋掘り体験や食育教室、正月飾り作り、カブトムシ飼育などを体験しています。子どもたちは地域の方々との体験を重ねることで、興味や関心がふくらんでいます。作ることの楽しさや完成の喜び、生き物の不思議や驚きを感じながら、地域の方々との体験や交流を楽しんでいます。

○散歩や外遊び

施設が高台に立地し、周囲を自然に囲まれているので、天気の良い日には散歩に出かけ、外遊びを通して自然と接する機会を多く取り入れています。季節ごとに移り変わる風景を見て、空気の匂いや風を感じています。他にも虫の鳴き声や風の音、草花や虫を観察することができます。秋の落葉踏みやドングリ拾い、冬には霜柱踏みや雪遊びを楽しみます。子どもたちは季節ごとに変化する自然の美しさや不思議さを身体全体で感じています。

○交流体験・職場体験

小学校2校からの交流体験や中学・高校各1校からの職場体験や保育体験を受け入れています。小学生は様々な遊びを準備して訪問してくれます。園児たちは初めて会うお兄さんやお姉さんに興味津々です。年が近いので交流の楽しさや年上への憧れを感じています。

職場体験でも年上の人たちと関わり、愛着関係をつくることで、情緒の安定に繋げることができています。

おわりに

散歩や外遊びなどの自然体験では、子どもたちが様々なことを感じ取るために、保育士が意識して環境をつくるように心がけて接しています。さらに、積極的に自然の変化に気づかせたり、興味をもつようにきっかけをつくっています。一方、園単独では難しい体験については、地域の方々の協力を得たり、近隣の学校と連携しながら実施しています。

体験や交流を通して、子どもたちの社会性や自尊感情、様々なものに対する興味や関心を高める取り組みを、職員一丸となってさらに深めていきたいと考えています。



食育教室



正月飾り作り体験



散歩



ドングリ拾い



雪遊び



職場体験

幼児教育・保育の無償化について

福岡県保育協会 会長 万田 康



少子高齢化という困難に正面から取り組むため、国は本年10月に予定されている消費税率の引き上げによる財源を活用し、子育て世代、子ども達に大胆に政策資源を投入することとし、社会保障制度はお年寄りも若者も安心できる全世代型へと大きく転換されることとなりました。20代や30代の若い世代が理想の子供数を持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかり過ぎているから」が最大の理由となっており、幼児教育・保育の無償化をはじめとする負担軽減措置を講じることは、重要な少子化対策のひとつであり、同時に幼児教育・保育の機会を保障することは子ども達の豊かな成長を促し、多様な可能性を育む上からも極めて効果的な施策であります。このことから、これまで、段階的に推進してきた取組を一気に加速するため、国は現行の子ども・子育て支援新制度の幼稚園・保育所・認定こども園等の利用者負担額を無償化するとともに、子ども・子育て支援法の改正法案を通常国会に提出し、新制度の対策とはならない幼稚園・認可外保育施設等の利用者に対しても給付制度を創設する等の措置を講ずることになります。

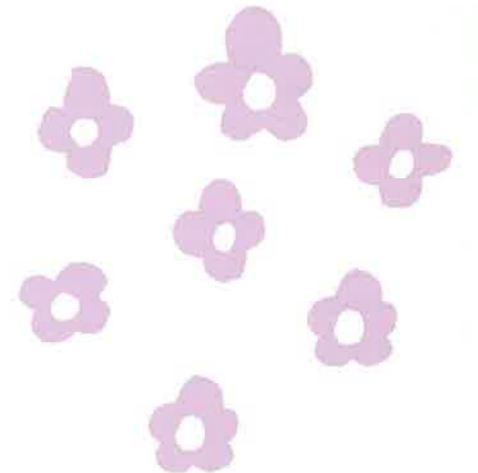
この無償化については、地方からさまざまな要望が出され、国と地方の協議の場で議論がすすめられました。

特に、「認可外」施設の無償化について、5年間、指導監督の基準に猶予期間が設けられることは、保育の「質」の確保上、大きな課題であり、保育を実施する地方自治体からも強く懸念の声が出されています。また、無償化に伴う費用について、全額を国の負担とするよう、地方から要望が出され、平成31年度の10月からの半年分は、全額が国負担の方針とされています。これまで自治体独自で軽減措置を講じているケースもありますが、今回の無償化を理由に他の予算にまわさないよう、保育・子育て支援関連の予算を削ることなく、さらに充実していただくよう、それぞれの自治体への働きかけも必要であると考えています。

今回の無償化の対象者・対象範囲については、

- ①3歳から5歳までの全てのこども及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもについての幼稚園・保育所・認定こども園及び地域型保育施設の費用を無償化
- ②幼稚園・保育所・認定こども園以外について認可保育所に入ることが出来ない待機児童がいることから、保育の必要性のある子どもについては、認可外保育施設等を利用する場合でも無償化
- ③なお、新制度の対象とならない幼稚園についても、新制度の利用者負担上限額(月額2.57万円)を上限として無償化し、また企業主導型保育事業については事業主拠出金を活用して、標準的な利用料金を無償化することとなっております。

この度の幼児教育・保育の無償化の施策は我が国の乳幼児教育・保育史上、画期的なことではありますが、これまで私達が実践してきたこと、子どもの健やかな育ちへの思いや最善の利益の保障、地域の子ども子育て家庭のための支援は、制度がどのように変わろうとも、その本質において変わるものではありません。私達には、これまで以上に地道に着実に実践を積み重ねることが求められています。このことを肝に銘じ共に努力して行きましょう。



平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に係る被災地支援募金等について

福岡県保育協会事務局



今年度も我が国は豪雨、地震等の自然災害に見舞われ、西日本では、平成30年6月末から7月初めにかけて広い範囲で台風7号及び梅雨前線等の影響により集中豪雨が発生しました。この集中豪雨は、気象庁により「平成30年7月豪雨」と命名され、公共施設、家屋等に甚大な被害をもたらしたことは記憶に新しいところです。

県内保育施設も甚大な損害を被り、保育三団体協議会をはじめ、各団体による義援金募集活動が行われ、また、見舞金をいただいたところです。

皆様のご厚意に心より感謝申し上げますとともに、ここに募金活動等についてご報告いたします。

1 保育三団体協議会による募金活動及び送金

保育三団体協議会(全国保育協議会、日本保育協会、全国私立保育園連盟)は、平成30年6月18日に発生した大阪北部を震源とする地震、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)により被災された地域の保育所等及び保育活動等を支援するための募金を同年7月13日から10月末日まで実施しました。

募金期間終了に伴い、各地域における会員保育所等の被害状況を踏まえて配分額が算出され、平成30年11月19日、本県を含め、全国15府県市の保育組織に送金されました。

送金額は、全国で80,504,610円。本県は12,372,840円いただきましたので、平成30年12月12日、大きな被害の報告のあった6施設(大橋保育園、文殊乳児保育園、すばる保育園、味坂保育園、やまのこ保育園及び川崎保育園)に対し、被害に応じた金額を算出し、それぞれお渡しし、一部を北海道胆振東部地震に係る被災地支援募金に送金しました。

2 その他の団体による募金活動や見舞金の交付

熊本市保育園連盟から800,000円の義援金をいただきましたので、3月8日、前述の6施設に被害に応じて算出した金額をお渡ししました。

また、福岡県保育協会、福岡県保育事業協会、全国保育協議会及び日本保育協会の各団体の見舞金交付要綱に基づき、被害の程度に応じ、それぞれ見舞金が該当施設に交付されました。

配分額 (総額 80,540,610 円)

送金先保育組織	送金額	送金先保育組織	送金額
京都府保育協会	4,060,710 円	山口県保育協会	90,000 円
京都市保育園連盟	450,000 円	愛媛県保育協議会	240,000 円
大阪府社会福祉協議会 保育部会	4,870,710 円	福岡県保育協会	12,372,840 円
大阪市保育連合会	360,000 円	北九州市保育所連盟	3,130,710 円
奈良県保育協議会	30,000 円	佐賀県保育会	180,000 円
岡山県保育協議会	24,022,110 円	長崎県保育協会	90,000 円
広島県保育連盟連合会	20,227,830 円	宮崎県保育連盟連合会	30,000 円
広島市保育連盟	10,385,700 円	合計	80,540,610 円

福岡県保育士就業マッチングサイト



はじめました!

福岡県保育協会・福岡県保育士就職支援センター



県内の多くの潜在保育士の求職登録を促し、再就職を強力に支援していくため、福岡県保育士就業マッチングサイト「ほいく福岡」が1月15日、開設されました。

「ほいく福岡」は、求職者がパソコンやスマホで手軽に求職登録できるほか、求人者も保育施設のパソコンから手軽に求人登録できます。是非ご利用下さいませようご案内します。

また、皆様のお知り合いに、保育士の資格を持っていないが現在保育士として働いていない方がおられましたら、是非サイトを覗いてみるようお勧めください。

1 「ほいく福岡」の概要

(1) 利用対象者・施設

求人 県内の認可保育所、認定こども園及び地域型保育事業所
求職 保育士資格を有する者

(2) URL <https://www.hoiku-fukuoka.jp/>

ほいく福岡 で 検索

2 「ほいく福岡」の特徴・機能

(1) マッチング機能



① 求職者がパソコンやスマホで求職登録

② 求人者がパソコンから求人登録(市町村等から配付されたIDとパスワードが必要)

※ご利用は、登録から採用後に至るまですべて無料です。

③ 求職登録者のパソコンやスマホに勤務希望地の新しい求人情報を自動配信

④ 求職登録者がサイト上で面接の申込みや問い合わせ

※面接申込後は、福岡県保育士就職支援センター(福岡県保育協会内)のコーディネーターが面接日程の調整などを行います。

(2) 求職者に対し、就職に役立つ情報の提供

・求人情報(希望条件に合致する求人情報の検索が可能)

・県や市町村等が実施する研修・イベント情報や就職支援資金貸付等の情報

お問合せ先 福岡県保育士就職支援センター(福岡県保育協会内)

電話:092-582-7955 FAX:092-582-7956

みつけた!

コラム

さばこ
cavaco

のそねいけ ワークショップ

子どもたちの
想像力に
耳をすまそう

Vol.14

ロシアの民芸品マトリョーシカ。大きな人形の中にひと回り小さな人形、その人形の中にもひと回り小さな人形が入れ子状に入っている、あの人形です。いったい、どこまで出てくるんだろう? とわくわくした

経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

多くの子どもたちは2歳すぎごろから大小概念を次第に身につけていき、さらに「たくさん - すこし」「よい - わるい」などの対比的性情語を獲得することで、世界を「対」の関係でとらえはじめ、その後、「ぼく - あなた」などの人称代名詞における「対」の関係を獲得するようになる、と指摘されています。このように抽象的な対概念を獲得していくことは、子どもたちが外界との関係を築いていくのに、とても重要なプロセスとなっているのです。

さて、今回は大小を楽しく感じながら遊べるマトリョーシカづくりをご紹介します。紙コップには、お茶などの試飲用に使われる小さな2オンスカップから、ビールジョッキやバケツのように大きなものまで様々なサイズがあります。この紙コップを伏せた状態で置き、小さなカップに大きなカップをどんどんかぶせていくことで、マトリョーシカをつくるのです。紙コップは外側が防水加工されていないものを選んでいただき、絵具を薄めずにもったりした状態で使用するとカップにつきやすいでしょう。油性マジックなどで描き込むのもよいと思います。

カップを家族に見立てたり、ぞうなどの大きい動物からりすなどの小さい動物をイメージしながら描いてみるなど、大小のいろいろなバリエーションを子どもたちと話しながら、制作してみると楽しいですね。

また、多くのカップは重ねられるように飲み口の直径が広く、底の直径が狭くなっています。このことを利用して、マトリョーシカとは反対に、大きいカップに小さいカップを被せていくと、どんどん積み上がって、ロケットやツリーのようなかたちになります。クリスマスシーズンにマトリョーシカと合わせて制作してみるのも面白いですし、ひとつひとつのカップを着彩して組み合わせるだけでも、思いがけないカラフルタワーが誕生しますよ。



山下麻里(やました・まり)

九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻修了。2007年より目黒実氏が主催する九州大学「子どもプロジェクト」に企画・デザイン等で参加。ユニバーサルデザイン教育を通じた社会貢献活動プログラム [こどもたちのUD移動ミュージアム]にデザインで参加、同プロジェクトはグッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞。2012年、福岡市西区に「生の松原子どもスコール」をオープン。2015年、子どもの本の出版社アリエスブックスを設立。

編集後記

「平成」も残り少なくなってきました。約30年を振り返ってみると、様々な変化がありました。保育所保育指針は昭和40年の施行以来、平成2年に初めて改定されました。昨年、平成30年にも大きく改定され、時代の変化とともに保育園の在り方も変化をしています。

ニュースでも「保育士不足」や「保育園落ちた」など待機児童問題等のキーワードをよく耳にし、世間の注目も高まっています。

今年5月には元号が改められ、世の中は予測できないスピードで変化し続けていきます。新しい時代の中、保育業界はどのように変化していくのでしょうか。私達はどんな変化にも対応できるよう備えていきたいものです。

広報部 桑戸

発行日 平成31年3月15日
発行者 万田 康
編集者 猿渡 保生
発行元 公益社団法人
福岡県保育協会
発行所 春日市原町
3丁目1-7
TEL 092-582-7955
FAX 092-582-7956